

SDGsセミナー：生態系分野の最新の国際動向

日時

2019.11.7 (木)

15:00 ~ 17:00

場所

名古屋大学 環境総合館
講義室3 (60名)

プログラム

(使用言語：日本語および英語)

■ 基調講演：市井 和仁

千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 教授

タイトル

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)の生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメントの概要と我が国への示唆について

～生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES) の生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメントについてIPBESの最新動向とSDGs への貢献を含む今後の展開を踏まえながら報告を行う。～

研究報告

1. Erica Honeck University of Geneva (Switzerland) 博士後期課程

タイトル

Mapping Green Infrastructure towards SDG 15: integrating biodiversity, connectivity and ecosystem services into landscape planning decisions

～グリーン・インフラの導入について、自治体レベルでは、景観計画への実装を支援するための方法論の構築を進めている。また、グリーン・インフラの導入と活用について、自治体レベルからグローバル・レベルまでのスケールアップを行う方策と、SDGs等への貢献のフレームワークについても研究を行っている。今回はこれらの研究の成果等について報告を行う。～

2. Barbara Kovács Center for Interdisciplinary Studies on Environment and Sustainable Development (CIEMAD), National Polytechnic Institute (IPN) (Mexico) 博士後期課程

タイトル

Analysis of management and social landscape values based on visitor perspective.

～メキシコシティ近郊の緑地について訪問者の受容の国際比較研究を展開するにあたり、メキシコシティを対象とした調査分析の結果を中心に報告する。今後日本とメキシコの大都市の比較を行う方向性についても議論を行う。～

3. 松沢友紀 名古屋大学環境学研究科 博士後期課程

タイトル

都市における養蜂ガバナンスの現状

～世界各地の都市域で養蜂活動が盛んになっている。養蜂は受粉機能や農作物の生産といったNCP/生態系サービスをもたらす一方で、刺胞傷害や在来種との競合など、負のサービスをもたらすこともあり得る。今回は都市部の養蜂活動に関して、地方公共団体が実施しているガバナンスの現状について紹介し、今後の都市域での養蜂ガバナンスのありかたについて議論する。～

主催：名古屋大学大学院 環境学研究科附属 持続的共発展教育研究センター (世話人・香坂玲教授)

後援：名古屋大学大学院 生命農学研究科 (予定)

後援：名古屋大学 フューチャー・アース研究センター

